

No.	DO7
タイトル	連鎖的な拠点開発とコンパクトなまちづくりの展開
所属・名前	株式会社 三四五建築研究所 取締役 諏訪 淳 株式会社 日本設計 都市計画群 第2グループ 主管 再開発担当 村岡 大祐 富山市都市整備部 都市再生整備課 主任 宮下 裕介
キーワード	①公共交通の利便性の向上 ②賑わい拠点の創出 ③まちなか居住の推進
<p>富山市では、鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを目指しており、「公共交通の利便性の向上」「賑わい拠点の創出」「まちなか居住の推進」を三本の柱としている。中心市街地においては、平成 19 年 2 月に国から第 1 号認定を受けた中心市街地活性化基本計画に基づく、市内電車環状線化事業、まちなか居住推進事業、といった各種の公共投資が呼び水となり、民間投資の事業も活発化している。</p> <p>また、中心市街地の賑わい創出、まちなかへの都市機能の集積、都市の魅力向上にあたり、大きな効果が期待される市街地再開発事業へも官民連携で積極的に取り組んでおり、これまでに 16 地区が竣工し、現在 2 地区で新築工事が進められている。</p> <p>中でも環状化した路面電車(セントラム)沿線、賑わい創出の核となっているグランドプラザ周辺では連鎖的に拠点開発が行われ、近年、市立ガラス美術館や図書館本館等が入った「TOYAMAキラリ」(西町南地区)、シネコン、ホテル等が入った「ユウタウン総曲輪」(総曲輪西地区)が竣工し、さらに、現在、昭和 51 年竣工の法定再開発ビル(旧西武百貨店)を含めた街区の市街地再開発事業として総曲輪三丁目地区において事業が進められている。</p> <p>環状化した路面電車、総曲輪商店街を都市の骨格とし、連鎖的な拠点開発により、多様な都市機能の集積、再配置を行う、中心市街地活性化に向けたコンパクトなまちづくりについて報告を行う。</p>	